



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2020年12月)



せりりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「お店屋さんプロジェクトで育つ力」

木の実や落ち葉で豊かな遊びや製作で溢れているせりりひじり幼稚園の今日この頃ですが、今は年長組のお店屋さんプロジェクトで盛り上がっています。

カーニバルがきっかけで、自分たちもお店を開こうということで年長組の話し合いが始まります。

何のお店にするか、どんなお店にするのか、何を用意するのか、何を使って作るのか、話し合っては作り、作っては話し合い、振り返りを繰り返していきます。プライドとこだわりが育つ5歳児は、適当なお店や適当な品物では満足しません。本物に見えるように、何度も何度も作り直します。

うどんやラーメンの透き通った出汁を作るために、「これじゃない」「にごっていたらおいしそうに見えない」「まだちがう」と、納得するまで何度も作り直しています。気の遠くなるような試行錯誤の連続ですが、それでも自分たちのイメージするものを作りたいので、諦めないで何度も何度もチャレンジしている姿があちこちで見られます。

色を着けるには様々な材料があります。絵の具、食紅、プラスチック絵の具、サインペン、油性ペン。その中から何が適しているか、自分たちで試しながら選んでいきます。立体のものを作る素材も様々です。粘土も種類が多く、柔らかさや艶なども考えて素材を選んでいきます。素材は、3歳4歳の時にいろいろなものを作る過程で様々な画材や素材を使ってきたことが経験として積みあがっています。

本物のように艶のあるイクラやまぐろ、何度も色を作り直したターメリックカレー、泡がおいしそうなおビール、マヨネーズがかかった焼き具合の絶妙なたこ焼き、間違えて食べてしまいそうなイカ墨パスタ、具沢山の美味しそうなおラーメン、お寿司を乗せても落ちないように微妙な調整までやってのけた回転ずし……。それぞれが、子どもたちの試行錯誤の末に苦労して作り上げた自信作です。

おばけやしきでは、本当のお化けのように、顔の表情や傾け方、手の向きや体の姿勢、出ていくタイミング、声の出し方などを何度も練習をし、お化粧も板についてきました。何度も行きたくなるような「お化け屋敷」にしたいから、1回来るごとに「お化け図鑑」を1枚渡し、6枚集まったら本にしてあげるという工夫まで思いつくところは素晴らしいですね。

お店が出来上がってからは、運営です。これがまた難しい。お客さんを長い時間待たせてしまったり、注文と違うものを出してしまったり、食べたものが散らかっているまま次のお客さんを案内したり、「うましくない」を経験します。そしてまた、振り返り、どんどん改善していきます。

子どもたちが失敗するかもしれない過程を(先回りすることなく)見守っている担任の後ろ姿を見ると、子どもたちの育ちを信じて、子どもたちと同じようにそのプロセスを楽しんでいることが伝わってきます。

この一大プロジェクトで育つ力は、主体性や発想力、問題解決力や根気、向上心や実行力、探求心や調整力、見通す力や俯瞰する力も育ちます。幼児教育においては「ぐくみたい力」がぎゅっと詰まった「店屋さんプロジェクト」。そして何よりも子どもたちが生き生きと前に進んでいく姿は頼もしく、就学前にふさわしい育ちを実感します。

明日からは少しずつ年長組の保護者の方にご来店いただきますが、この日までの子どもたちの「努力の痕跡」をたくさん見つけてください。そして様々な工夫に気付きながら楽しんでいただければと思います。